

六月十八日

「ホタテの日」制定記念イベント開催



ホタテ贈呈式

本県沿岸漁業の最重要魚種である、青森ホタテのPRと消費拡大をより一層促進するため、むつ湾漁業振興会と青森県漁業協同組合連合会が全国に先駆けて六月十八日を「ホタテの日」と制定した。



除幕式

量も多く一年の内で最も美味しい時期であることから制定となった。
制定第一回目を迎えた去る六月十八日は、むつ湾漁業振興会、青森県漁業協同組合連合会、県はたて流通振興協会(社)県はたて漁業振興基金の4団体協賛により、陸奥湾ホタテ漁業を一斉休漁日として各地でそれぞれ記念イベントが開催された。



「ほたて養殖顕彰碑」



「陸奥湾讃歌碑」

この内、メイン会場でもある平内町夏泊半島の
大島パークでは、「はたて養殖顕彰碑」(揮毫「木村守男知事」)の除幕式が開催された。

この顕彰碑はホタテ養殖の道を切り開いて、今日のホタテ安定生産の基礎を築いた山本護太郎博士の功績と、陸奥湾のホタテ養殖こそが漁業者の生活を安定させ、漁業で生計を立てていく基盤になるとしてホタテ養殖の確立に取り組んだ、故豊島友太郎翁の功績をたたえ建立されたものである。
式典には、植村県漁連会長(全漁連会長)、三津谷むつ湾漁業振興会長、玉熊県水産部長他関係者約100人が出席し、今やホタテ漁業も百億円

産業となる県の基幹産業でもあり、先人たちの努力に対し感謝の意を込め除幕式が行われた。
また、ホタテだけでなく陸奥湾の文化の香りも楽しんでもらおうという趣向から、先に建立されている歌碑歌の散歩道(には、「陸奥湾讃歌碑」(碑文「佐藤立治県出納長 前県水産部長」)も建立され同時に除幕式が行われた。
この他、むつ湾地区を4ブロック(青森市、むつ市、蟹田町、平内町)において、ホタテのPR活動と一般者に対するホタテの無料配布・試食会、更には老人福祉施設(3ヶ所)にホタテの贈呈を行う等、陸奥湾全般にわたる記念イベントがそれぞれ行われた。



ホタテ無料配布